

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>【成果】① 危機管理体制の整備として、原子力防災に係る保護者引き渡し訓練を実施することができた。 ② 危険個所に飛び出しキッズを設置したり、交通指導に毎朝立つ場所を増やしたりと事故防止に努めることができた。</p> <p>【課題】① 人権同和教育推進のために校内体制を整えたり、児童・保護者・職員の人権意識を高めたりする取組が必要である。 ② 特別支援教育の充実を図り、さらに個に応じた教育を進める。</p>
------------------	---

2 学校教育目標	自ら考え行動し、いきいきと学ぶ児童の育成
----------	----------------------

3 本年度の重点目標	<p>【知】① 学習規律を整える。② 話し合い活動を通して考えを深める授業を展開し、児童の学ぶ意欲を高める。</p> <p>【徳】① 児童・保護者・職員の人権意識を高めるために、校内体制を整える。② 特別支援教育の充実を図る。</p> <p>【体】① 保護者と共に食育を推進する。</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		学校関係者評価
				評価	意見や提言				
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・校内研修で定期的にマイプランを振り返り、意識化を図る。 ・校内研究により、取組の促進を図る。					学習指導部【瀬戸・山下】 研究主任【杉原】 副主任【緒方】	
	○学習規律の確立 ・「チャイム席」の徹底 ・学習準備の徹底	○「授業開始時刻に着席することができているか」「次の時間の準備をして休み時間をしているか」の質問に対し、肯定的な回答をした児童85%以上	・定期的に授業開始時刻に着席ができているか、次の授業の準備ができているか、を確認し、児童への意識化を図る。					学習指導部【瀬戸・山下】 研究主任【杉原】 副主任【緒方】	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上 ○人権に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童90%以上	・道徳に関するアンケートを実施 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・学期に1回、低中高別の人権教室を実施し、人権アンケートをとる。					道徳教育推進教師【久保】 人権・同和教育担当【田久保】 各学年主任	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○Q-Uにおける学校生活満足度を前年度よりも増やす。 ○認知したいじめの3ヶ月以内での解消率100%を目指す。	・構造的エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングなどを取り入れた授業実践を重ねる。 ・児童の様子に目を配り、気になることは「校内いじめ防止対策委員会」を開き、組織的に対応していく。					生活指導部【佐藤・北川生】 各学年主任	
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「健康に食事は大切である」と考える児童95%以上 ○朝食をとって登校する児童95%以上	・保護者への啓発を図るために「保健だより」を発行する。 ・食事の大切さを実感したり命や作る人への感謝の気持ちをもったりできるよう、給食時間等を中心に学年に応じて指導を行う。					健康指導部【野上・森下】 学校栄養職員 養護教諭	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・会議1時間以内を実行する。 ・学校や学年行事を見直し、組み合わせられるもの、縮小できるもの、削減できるものなど運営委員会を中心に考えていく。 ・業務記録を有効活用し、月毎の時間外勤務の目標時間を設定し、意識を高めていく。					企画会	
	○教職員の連携促進	○「自己のタイムマネジメントをしながら業務にあたることができたか」「学年や部会で仕事の分担ができているか」の質問に対し、肯定的な回答をした職員70%以上	・運営委員会や学年主任会で主任や部長に働きかけることで協働意識を高める。 ・業務の負担に偏りがいないか、企画会メンバーで情報共有し、対応する。					企画会	

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		学校関係者評価
				評価	意見や提言				
○特別支援教育の充実	○特別支援教育への理解推進・支援体制の確立	○特別支援教育への理解推進・支援体制の確立	・特別支援担当者が学級担任や生活支援員と密に情報交換を行い、児童の状況を適切につかみ、具体的な手立てをもって支援する。 ・保護者向けの通信を特別支援より年6回程度発行し理解を図る。					特別支援部【松尾・佐々木】	
○予防的・開発的指導	○基本的生活習慣の実態把握と改善指導	○生活目標のうち「あいさつ」「安全のきまり」「無言清掃」を守れたと答える児童85%以上を目指す。	・委員会活動や代表委員会を通して、児童による啓発を行う。 ・生活指導協議会で児童の実態を把握し、全職員で共通理解を図り、指導重点項目の徹底を目指す。					生活指導部【佐藤・北川生】 特別活動部【坂口・松野】	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	
--------------------	--